二十歳を祝う会

新たな決意と感謝を込めて

1月6日(土)、秋桜アリーナにおいて門出を祝う二十歳を祝う会が開催されました。

ふるさと浪江で繋がる絆

色とりどりの振り袖や、真新しいスーツに身を包んだ30人が二十歳を祝う会に参加し、昔と変わらない笑顔の旧友を見つけると、13年ぶりの再会を喜ぶ声が会場内に響き渡りました。

式典冒頭では、東日本大震災および能登半島地震の犠牲者に対して黙祷するとともに、哀悼の意を捧げました。

吉田栄光町長は式辞で「自分を信じ、勇気をもって前に進み、日常に追われても、故郷を思うたびに今日の気持ちを思い出し、再び前に進んで欲しい」とエールを送りました。

町の記念品を須藤伶さん（津島）が代表で受取り、誓いの言葉では、菅野いちごさん（苅野）が「町を離れてどれだけ時間がたっても、浪江町が故郷であることは変わらない。一人の大人としての責任を持ち、それぞれの道を歩んでまいります」と決意を新たにしました。

式典に参加した小学校の恩師６人、家族らが、大人としての第一歩を進む参加者たちの晴れやかな門出を祝いました。

浪江町の二十歳

生まれ年		平成15年度
対象者数		179人
出席者数		30人
内訳	浪江地区	6人
	幾世橋地区	5人
	請戸地区	4人
	大堀地区	4人
	苅野地区	6人
	津島地区	5人

誓いの言葉

●二十歳代表●
菅野 いちご さん
（苅野地区）

まず初めに、この度の令和６年能登半島地震により、お亡くなりになられた方々に謹んで、お悔やみを申しあげますとともに、被災された皆さま方に、心からお見舞い申しあげます。

本日は成人を迎えました私たちのために、このような盛大な式典を挙行していただき、ありがとうございます。また、お祝いや激励のお言葉を賜りました吉田町長をはじめ、ご来賓の皆さま、本日ご出席いただきました皆さま方に、新成人一同を代表いたしまして深くお礼申し上げます。多くの苦難を乗り越え、私たちのふるさと浪江町で約13年ぶりに再会する友人とともにこの日を迎えることができたこと、大変うれしく思います。

大人としての第一歩を歩み始めるにあたって、これまでの人生を振りかえると、楽しいことばかりではありませんでした。新成人の皆さんも、20年間の中の大きな出来事として13年前の東日本大震災を思い浮かべる方は多いのではないでしょうか。私たちは当時小学1年生で、何が起こっているかも分からないまま、友人に会えなくなり、家に帰れなくなり、避難生活が始まりました。いつ家に帰れるんだろう、もう友達には会えないのかなと、たくさんの不安を抱えながら、避難所で1つのおにぎりを妹と分け合って食べたことを今でも鮮明に覚えています。そんな中、私を支えてくれたのは両親の存在です。幼い私たちを連れ、自分自身も先行きの見えない不安に襲われている中、そんなことを感じさせず、励まし続けてくれました。また、両親以外にも私たちに手を差し伸べてくれる大人がたくさんいることを知りました。私たちは、多くの優しさに触れ、たくさんの人に守られながら、今日この日を迎えることができています。

東日本大震災から13年が経ち、私たち新成人のほとんどは、この町より避難先での生活の方が長くなってしまいました。私の通っていた幼稚園や小学校は解体されてしまい、もう写真でしか見ることができません。しかし、建物がなくなってしまっても、その場所で過ごした思い出や人との繋がりそのものが消えてしまうわけではありません。この町を離れてからどれほどの時間が経っても、この浪江町が私たちの故郷であることは変わりません。この町の復興も少しずつ進んできています。私たちも、いつまでも、かわいそうな被災者でいることはできません。これまで、たくさんの方々に支えられてきた私たちですが、これからは、一人の大人としての責任を持ち、それぞれの道を歩んでまいります。

最後になりますが、この志を胸に、これからも成人として成長し続けていく決意を申し上げ、誓いの言葉といたします。

人生の節目、決意を新たに

記念品を受け取る須藤伶さん

吉田栄光町長の式辞

式典に臨む二十歳の皆さん

インタビュー

二十歳の決意と抱負

親友との嬉しい再会に感謝

家族とともに
笑顔と愛があふれる新たな門出

将来への決意を胸に、やったるぜ！

二十歳の決意新たに、旧友と笑顔が華やぐ

幾世橋小学校の恩師に、感謝の気持ちを込めて

ふるさと浪江で繋がっている あなたを想う恩師からのメッセージ

●津島小学校●
１年担任
稲垣みゆき 先生

2011年３月。もうすぐ２年生になろうとしていた皆さんは、新しい１年生のために歓迎の手紙を書き終え、教室の清掃をしていました。大きな地震。その後、度重なる揺れが続き、小雪が舞い落ちる校庭で泣き出しそうな皆さんを、上級生が校歌を歌いながら励ましてくれていたことを思い出しました。

あれから13年、皆さんは20歳になるのですね。感無量です。本当におめでとうございます。今度は成人として、次世代の人を励ます人になってください。

●大堀小学校●
１年担任
紺野　弘子 先生

二十歳おめでとうございます。

震災の日、あの日が大堀小で過ごした最後の日になりました。かわいい皆さんの顔がはっきり浮かんできます。

あれから13年。小中高とどのような日々を過ごしたのでしょうか…。皆さんの成長した姿を思い浮かべています。

これから社会に出ていく皆さん。思い通りになることばかりではありません。しかし、自分を大切に過ごしてほしいと思います。よい出会いに恵まれ、笑顔と温もりに満ちた人生であることを祈っています。

●苅野小学校●
１年担任
阿部久美子 先生

二十歳を迎えられた皆さん、本当におめでとうございます。

私の覚えている皆さんからは想像もできないくらい立派に成長されているのでしょうね。

皆さんは、小学一年生という小さなころから大変な経験をして過ごされたことと思います。

一年生の時の学年だよりのタイトル「かがやき」のように、24名の皆さんが、今後それぞれの場所でかがやける人生を歩まれるよう心より願っております。

●幾世橋小学校●
１年担任
三瓶みゆき 先生

二十歳になって何か変化はありましたか？決定権はあなたにあるといわれてもねえ、責任本当にとれる？困惑するよね、大人って何だろう。

老人の私から立派な成人のあなたへお願いがあります。政治に関心を持ってください。血税と信託によって政治はとりおこなわれます。

誰でもが安心して自分の一生を送ることができる社会にしていきたいですね。〝誰でも〟がキモです。どうかよろしくお願いします。

あなたも私も同じ社会に生きる一員です。がんばろうね。

●浪江中学校●
３年担任
菅野　優子 先生

二十歳を迎えられた皆さん、おめでとうございます。若い皆さんの心は、今どのような夢や希望で満ちているのでしょうか。

震災から13年経とうとしています。浪江町で過ごした子ども時代は覚えていますか？家や学校、友達など、避難で失ってしまったものがたくさんあったと思います。ですが、失ったことのある人は、今目の前の当たり前を大切にできる、素敵な人になれると思っています。

これからの「大人」としての人生が、彩り豊かなものになるように願っています。

●浪江中学校●
特別支援学級
柴口 正武 先生

二十歳をお迎えしたこと、おめでとうございます。

小学１年生の時に遭遇した大地震、原発事故。その困難の中でみなさんを守り、育ててくれたご家族に感謝してください。何よりも、ここまで生きてきた自分自身のがんばりを誇りに思ってください。その誇りを胸にこれからの人生を豊かなものにしていってください。

そして、浪江中卒業の３人のみなさん、伝統ある浪江中の最後の卒業生としての自覚を新たに感じてこれからを元気に過ごしてください。